

# 淡路島内の永田青嵐の句碑・歌碑



① 傀儡師  
波の淡路の  
訛かな  
場所：洲本市海岸通  
淡路文化史料館前



② すずしきや  
僧に従ふ  
朝の階  
場所：洲本市上内膳  
先山千光寺  
山門下展望台



③ 春雨や  
波の淡路の  
五色浜  
場所：洲本市五色町鳥飼浦  
県道31号線沿い



④ なつかしき  
水の細さよ  
猫柳  
場所：南あわじ市田田広田  
南あわじ市役所  
旧緑庁舎前



⑤ 茄子汁  
佛をおそれ  
住みにけり  
場所：南あわじ市倭文長田  
永田青嵐生家



⑥ 震災忌  
吾に古りゆく  
月日かな  
場所：南あわじ市倭文長田  
観音寺墓地



⑦ 海晴れて  
松風清き丘の上に  
正しき者の  
墓と呼ばれむ  
場所：南あわじ市倭文長田  
観音寺墓地



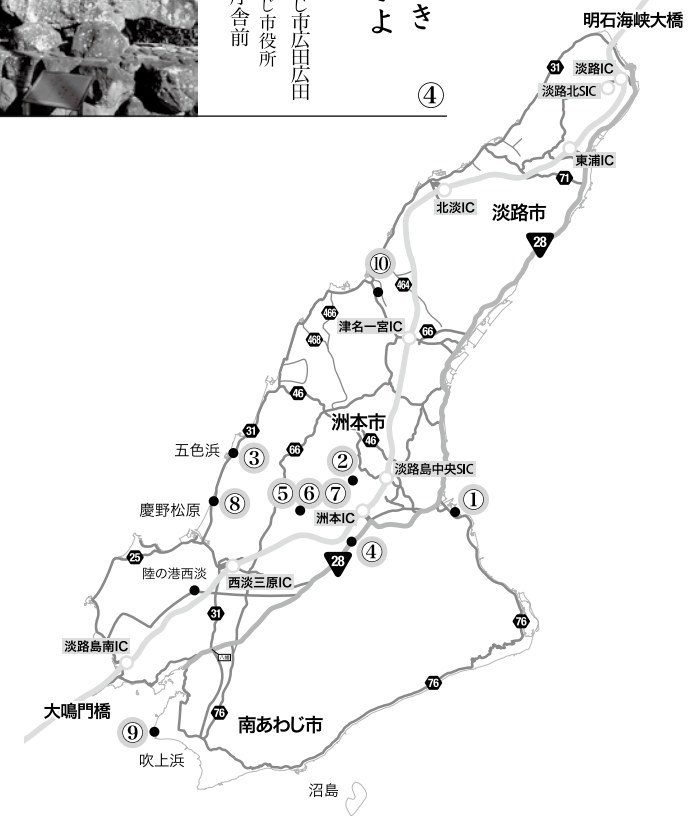
⑧ 波消えて  
力なくとぶ  
千鳥かな  
場所：南あわじ市松帆慶野松原  
国民宿舎  
慶野松原荘前



⑨ 若布刈  
いづれが近き  
撫養福良  
場所：南あわじ市阿万吹上  
ホテルニューアワジ  
プラザ淡路島前



⑩ 粃蒔いて  
天地に事  
なかりけり  
場所：淡路市多賀  
伊弉諾神宮外苑



撫養・福良を望む

若布刈  
いづれが近き  
撫養福良  
青嵐

## 第十五回 永田青嵐顕彰 全国俳句大会 入選句集



◎募集期間  
令和5年6月～9月  
◎表彰式  
令和6年2月11日

発行日：令和6年2月  
発行：一般財団法人淡路島くうみ協会  
〒656-0022 兵庫県洲本市海岸通1-11-1  
TEL:0799-24-2001 FAX:0799-25-2521  
<https://www.kuniumi.or.jp>



# 開催趣旨

永田青嵐顕彰全国俳句大会は、淡路島が生んだ偉人永田青嵐（本名：永田秀次郎）の功績を全国に発信し、俳句文化を通じたふるさと意識の高揚や、交流人口の増加による淡路島の活性化を図ることを目的として、平成二十二年度から実施しており、今回で十五回目になります。

また、大会では、「一般の部」に加え、「学生（小・中・高校生）の部」を設け、淡路島内の学校のみならず島外の学校からも投句を募集し、全国の子ども達に永田青嵐を広く周知するとともに、俳句を通じて日本の風土や文化に触れる機会とし、心豊かな人づくりを目指しています。

そのほか、俳句の裾野を広げるため、初心者のための「俳句入門講座」や、島内の小・中・高等学校を対象に「俳句出前講座」、淡路島の景勝地等を巡って俳句を詠む淡路島吟行句会も実施しております。

# 永田青嵐

一八七六一一九四三

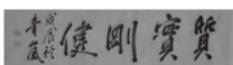


兵庫県三原郡（現南あわじ市）生まれ。

本名、秀次郎。一八九九年第三高等学校（現京都大学）法学部卒。旧兵庫県立洲本中学校長、三重県知事、

貴族院議員、拓務大臣、拓殖大学長などを歴任。東京市長を二度務め、一九二三年の関東大震災からの復興、一九四〇年に開催予定だった幻の東京オリピックの招致に尽力。

俳句は、三高在学中に寒川鼠骨の手ほどきを受け、後に高浜虚子に心酔。句は特別枠で随時俳誌「ホトトギス」に掲載された。代表句として「凧に追はるゝ如く任地去る」がある（永田青嵐句集、新樹社）。「震災忌吾に古りゆく月日かな」は辞世句。また、「交わりは薄くも濃くも月と雲」は、虚子の追悼句。他に「青嵐随筆集」（実業之日本社）等がある。



青嵐作  
（兵庫県立姫路西高校所蔵）

一八九五年旧制姫路中学校（現兵庫県立姫路西高校）を卒業した秀次郎の昭和三（一九二八）年の作。この「實剛健」は三つある同校の校訓のひとつとして今でも校長室に堂々たる存在感を持って掲げられています。

# 目次

開催趣旨、永田青嵐紹介	1
第十五回大会に寄せて	3
・石村健大会会長挨拶	3
・永田秀一大会名誉会長挨拶	3
・稲畑廣太郎代表選者挨拶・賛同句	4
・選者賛同句	5
稲畑廣太郎選	6
・入賞作（一般の部）	6
・入賞作（学生の部）	7
・佳作（一般の部）	8
・佳作（学生の部）	9
選者選	10
・入選作（一般の部）	10
・入選作（学生の部）	12
・準入選作（一般の部）	15
・準入選作（学生の部）	16
俳句入門講座・出前講座・淡路島吟行バスツアー	17
後記	18
大会運営委員会委員	18
淡路島内の永田青嵐句碑・歌碑	18

# 第十五回大会に寄せて

第十五回永田青嵐顕彰全国俳句大会会長

一般財団法人淡路島くうみ協会理事長 石村 健



淡路島が生んだ偉人、永田秀次郎（俳号「青嵐」）の功績を讃えるとともに、俳句を通じてふるさとへの愛着を高めていただきたく、平成二十一年度から開催してまいりました本大会も、この度、第十五回目を迎えることができました。

今年度は、四三九七人の方から、七九〇七句の投句をいただき、過去最多となった第十三回大会に次ぐ投句数となりました。また、海外からも投句いただくなど、本大会が広く認知され、多くの方に親しまれる大会となりました。ことを大変嬉しく思います。これまで投句いただいた皆様や学校関係の皆様、そして大会運営にご尽力くださいました先生方に対して、大会関係者を代表して心からお礼を申し上げます。

今後、永田青嵐のふるさと淡路島から、我が国が誇る伝統文化である俳句の素晴らしさを発信し、「俳句の島・淡路島」の魅力を広く知っていただくよう努めてまいります。引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

関係の皆様、今後ますますのご活躍とご健勝を祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

第十五回永田青嵐顕彰全国俳句大会

代表選者

ホトトギス主宰 稲畑 廣太郎

第十五回永田青嵐顕彰全国俳句大会開催誠におめでとうございます。去年の第十四回より代表選者を務めさせて頂いております稲畑廣太郎でございます。十五回といえば一つの節目でもあります。私事第十回大会の時に講演をさせて頂いておりますが、あれから五年の歳月が流れました。その間世界中が新型コロナウイルス感染症の蔓延による緊急事態宣言で俳句活動もままならなくなつた時期もあり、又前選者稲畑汀子死去という悲しみもありましたが、そんな中、私を感じましたのは、特に学生の方々からの意欲的な作品が多くあつたことは何よりも嬉しいことでした。次代を担う若い作家がこれからも活躍なさることを願って止みません。

待春や大いなる忌を近付けて

春隣島の歴史を紡ぎゆく

汀子句碑起点としたる探梅行

第十五回永田青嵐顕彰全国俳句大会名誉会長

永田 秀一



永田青嵐顕彰全国俳句大会も皆様方のご支援、ご指導により第十五回目を迎えることが出来ました。全国各地から投句をいただき、心より御礼申し上げます。祖父永田秀次郎は、淡路島で生まれ、政界、俳界、教育界等多方面で活躍しましたが、特に俳界では、高浜虚子の指導を受け、「青嵐」の俳号で親しまれ、人情味豊かな俳句を多数残しています。淡路島を詠んだ句も多く、島内各地に句碑があります。その句碑を見る度に、祖父の故郷を想う心が、句として後世に残っていくことの素晴らしさを感じております。

また、生家近くの小高い丘に墓があり、次の歌碑が建っています。

海晴れて松風清き丘の上に

正しき者の墓と呼ばれむ

とあり、自分は一生正しいことをしてきた人だったと言ってもらえるような人生を全うしたいと念願し、詠んだものです。本大会開催にご尽力いただきました関係各位に心より御礼申し上げます。

## 【経歴】

昭和三十二年五月二十日、兵庫県芦屋市生まれ。

母稲畑汀子の許で幼少の頃より俳句に親しむ。俳人高浜虚子は曾祖父。昭和五十七年三月、甲南大学経済学部卒業。四月合資会社ホトトギス社入社、本格的に俳句を志す。

昭和六十三年一月、ホトトギス同人、同時にホトトギス編集長就任。

平成十七年四月、ホトトギス雑誌選者及び副主席に就任。平成二十五年十月、ホトトギス主宰に就任。

令和四年、財団法人虚子記念文学館理事長及び館長。同年、社団法人日本伝統俳句協会副会長。



## 【著書一覽】

句集に『廣太郎句集』『半分』

『八分の六』『玉箒』『閨』

著書に『曾祖父虚子の一句』他

《選者賛同句》

若者に戻りて黒子蜜柑剥く

正井 良徳

南あわじ市在住  
「淡路風土俳句会」代表



待春の茶室を飾る翁面

三根 香南

洲本市在住  
「淡路若葉会」代表



母愛でし庭椅子濡らす菜種梅雨

木下 圭子

洲本市在住  
「ホトトギス」同人



枯野また命の色でありにけり

高野 さち

洲本市在住  
「九年母」推薦作家



木偶廻し屋号にのこる回漕店

鬼本 英太郎

神戸市在住  
「わかば」同人



入賞作【一般の部】稲畑廣太郎選

《永田青嵐大賞》

かたつむり雨粒一つづつ宇宙 静岡県 掛井 広通

《兵庫県知事賞》

限りなき闇に散ばる揚花火 香川県 島谷うた子

《稲畑廣太郎賞》

空蝉が落ちて季を知る古木かな 愛知県 微笑亭さん太

《拓殖大学長賞》

涼しさを造って庭師帰りゆく 兵庫県 清瀬 環

《洲本市長賞》

島々を抱きこむやうに天の川 兵庫県 中島 保

《南あわじ市長賞》

初潮や地軸ゆるがす渦の音 東京都 和泉 明夫

《淡路市長賞》

皆去りてとり残されし夏野かな 愛知県 川崎美智子

《兵庫県淡路県民局長賞》

七夕の表と裏の願ひごと 兵庫県 田辺富士雄

《淡路島観光協会長賞》

汀子師の涼しき吐息偲ぶ島 兵庫県 柄川 武子

《淡路島くうみ協会理事長賞》

倂を紅梅の空仰ぎては 兵庫県 西村みどり



## 入賞作【学生の部】稲畑廣太郎選

《永田青嵐大賞》

星月夜星をかぞえる小さな手 岐阜県 大杉ひより

〔川辺町立川辺中学校〕

《拓殖大学長賞》

目覚ましがほこりまみれな夏休み 兵庫県 原口 煌生

〔蒼開中学校〕

《金賞》

あと少し余命を告げるせみの声 兵庫県 打越 絆乃

〔蒼開中学校〕

《銀賞》

子供らの夢へと進む流れ星 台湾 鍾 承 翰

〔台湾崇華小学校〕

《銀賞》

蟬時雨夜明けの空に木霊する 兵庫県 上田 梗介

〔洲本実業高等学校〕

## 佳作【一般の部】稲畑廣太郎選

独り行く心揺らすや青田風 岩手県 千葉 信

東京は新樹切るつてまじつすか 兵庫県 福島 紫公

水中に風起こしたる花藻かな 福岡県 藤崎由希子

かたはらに恥ぢ入るやうに遍路墓 東京都 大須賀 正

林道の声も吸ひ込む五月闇 香川県 永森 光徳

万緑の水面切り分けカヌー漕ぐ 愛知県 恒川すゞ子

新涼を切り抜く島や空の青 兵庫県 川村ひろみ

帰省子に話せば長きことばかり 兵庫県 宮崎 彩

峡一村色を消しゆく白雨かな 和歌山県 市ノ瀬翔子

並び跳ぶ海豚へどつと大西日 愛媛県 東田 一鮎

《銅賞》

夕焼がぼくを見つけて笑ってる 東京都 野田 蒼人

〔江戸川区立南篠崎小学校〕

《銅賞》

炎天下家の中外別世界 大阪府 森本 紗和

〔大阪市立大東小学校〕

《銅賞》

蟬の声心がおどる音色かな 東京都 小室 守怜

〔荒川区立第四中学校〕

《銅賞》

星空や孤独に光る流れ星 兵庫県 池田 有那

〔淡路高等学校〕

《銅賞》

扇風機独り静かに首を振る 兵庫県 辻 雄貴

〔淡路高等学校〕

秋近し色づき初むる大銀杏 岡山県 中山 幸子

秋澄めり吊橋を置き渦を置き 東京都 早坂 洋子

突然の雷や地に雨突き立てて 香川県 静川あさえ

蓮は実を飛ばして未来信じけり 兵庫県 足達 晃子

更衣遺品は残さないと決め 兵庫県 岩田美代子

風船ゆらり青空がまぶしすぎ 三重県 森 時風

棺閉ぢて菊の香残し別れけり 鳥取県 有本 泉水

帰省子の背丈に余るチェロを抱き 兵庫県 小谷さよ子

寒林のかたへに街の灯のともる 岡山県 綾野 静恵

いつまでも酷使してゐる秋団扇 滋賀県 奥村 純子

佳作【学生の部】稲畑廣太郎選

洗たく物きれいにたたむ終戦日 大分県 染矢みらい  
〔大分市立大在小学校〕

ひまわりがたいようあびてあくびする 東京都 矢作 真子  
〔江戸川区立西一之江小学校〕

なつのそらうってみたいなホームラン 兵庫県 内海 れい  
〔北淡小学校〕

かぶとむしいっぱいごはんたべるんだ 鳥取県 かわもとこうき  
〔鳥取市立鹿野学園〕

もうすぐだ運動会が待っている。 大阪府 西口茉那実  
〔大阪市立大東小学校〕

入学はきんちようしたと思ひ出す 大阪府 里村 栞  
〔大阪市立大東小学校〕

雨あがりすずしい風をありがとう 兵庫県 奈良 煌生  
〔神代小学校〕

着物着て心も踊る七五三 兵庫県 島本 奈津  
〔三原中学校〕

たいようがぼくになつたと告げてくる 埼玉県 早坂 圭右  
〔桶川市立桶川東中学校〕

窓の外広がる世界蟬の声 東京都 村上 知優  
〔文京区立茗台中学校〕

入選作【一般の部】正井良徳選

《優秀句》  
 稲妻の磨く稜線三熊山 兵庫県 桑田 伸夫

《優秀句》  
 英霊は今も十七秋螢 佐賀県 上野 酔歩

滝落つる襲ねたる白解くやうに 三重県 水野 悦子

白鳥や水引つぱつて飛び立てり 福井県 木幡 嘉子

初産の牛をなだめて明易し 兵庫県 笠山 貴子

火をつなぐ子の手親の手庭火花 兵庫県 清水里枝子

父も子も武士の顔する西瓜割り 鳥取県 狩野 美優

家苞は波の淡路の大夕焼 兵庫県 中尾 菲出

田水張る注ぎ込まれし空と雲 兵庫県 岡本 功

青空へ所作誇らかに鋒の稚児 兵庫県 伊藤 秀子

花火咲き彼女の瞳鮮やかに 兵庫県 古川 美結  
〔神戸市立長峰中学校〕

夏の夜星を見上げて頬濡らす 広島県 大賀 愛桜  
〔福山市立松永中学校〕

夕立に思わず浮かぶ犬の顔 兵庫県 西端 志維  
〔三田市立ゆりのき台中学校〕

思ひ出す去年の夏の願い事 兵庫県 川野 絆奈  
〔洲本実業高等学校〕

炎天下走ってつかむ青空を 兵庫県 山西 芽衣  
〔洲本実業高等学校〕

いつまでも子供でいたい夏休み 兵庫県 川端 里奈  
〔洲本実業高等学校〕

ふと見あげ雲ひとつなく青嵐 兵庫県 福田 健  
〔蒼開高等学校〕

梅雨晴間さっきの雨と雲はどこ 東京都 砂押 海志  
〔中央大学杉並高等学校〕

夕焼けでまぶしく光る海の水 兵庫県 深見 優和  
〔淡路高等学校〕

見上げると心も晴れる星月夜 兵庫県 片山 里歩  
〔淡路高等学校〕

入選作【一般の部】三根香南選

《優秀句》  
 恐竜を掘り出すつもり日焼の子 兵庫県 平尾美智男

《優秀句》  
 初産の牛をなだめて明易し 兵庫県 笠山 貴子

霊水といふ露けさをいただきし 兵庫県 岩城 久美

りんごむくうなずくだけの母のため 群馬県 川野 忠夫

香木の流れ着く島雲の峰 兵庫県 島谷喜代孝

帰省子に話せば長きことばかり 兵庫県 宮崎 彩

炎帝に刃向かうごとしバラの棘 埼玉県 中村 恵子

日を拝み仏を拝み秋遍路 大阪府 和田マサミ

くつ下を脱ぎたがる子や夏座敷 徳島県 岡本 淳子

秋の浪慕ひ寄るかに汀子句碑 大阪府 徳澤南風子



入選作【一般の部】木下圭子選

《優秀句》

英 靈 は 今 も 十 七 秋 螢 佐賀県 上野 酔歩

《優秀句》

歌々と牛舎の夜長べこ生まる 兵庫県 片山 紀子

故郷を背負ひ酷暑の甲子園 滋賀県 寺村 房子

雑踏の人となる子や秋の暮 兵庫県 春名あけみ

山風のさわぎ蓮池動き初む 広島県 嶋山 洋子

逞しき腕の日焼や応援団 兵庫県 久住登喜子

くり返す一語の長し法師蟬 鳥取県 椋 則子

夏草に挑みし鎌の瘦せにけり 兵庫県 中尾 菲出

くつ下を脱ぎたがる子や夏座敷 徳島県 岡本 淳子

花冷や繋ぎ牛舎の温度計 愛媛県 久保田 凡

入選作【一般の部】鬼本英太郎選

《優秀句》

湯豆腐や浮きて沈みて角取れて 兵庫県 武藤 龍雄

《優秀句》

せんべいに木偶の焼印村芝居 兵庫県 榎本 純子

手に馴染む父の鞆や入社式 三重県 小林 寛久

跳び方に伸び代あらむ雨蛙 島根県 寺津GONZA

跡取りの読経高らか若葉風 長崎県 井上 恭子

ふるさとの昼あめ色昼寝する 愛知県 小出 眞澄

転職を言ひ出せぬ子と天の川 兵庫県 東面 昭博

沖晴れて帰燕の空に濁りなし 福岡県 加来美智子

合歓咲きて村に久しき嬰の声 兵庫県 岸本 豊子

遠雷に鎌を休めて「雨かいの」 岡山県 貞住 牛鬼

入選作【一般の部】高野さち選

《優秀句》

青嵐忌城址の木の実太り初め 愛知県 中西 定子

《優秀句》

浦曲まで攻め込んでくる祭笛 兵庫県 涌羅 由美

もう一つ国を産もうか田水沸く 兵庫県 岡本 功

瀬戸に立つ神の御座か雲の峰 愛知県 岩田 遊泉

あめんぼ浮く棚田千枚千の月 埼玉県 木村 隆夫

揚浜に日焼重ねて藻塩蟹 京都府 本谷眞治郎

対岸の小春へ曲がる渡し舟 福岡県 藤崎由希子

玉葱に声かけ箱に詰める父 大阪府 山野 鳳

少年を少年と成す大夏野 兵庫県 佐竹美保子

月涼しおのころ島に子を産みて 大阪府 市村 健夫

入選作【学生の部】正井良徳選

《優秀句》

夏祭りいつもと違う街を知る 兵庫県 林 陽樹

《優秀句》

洗たく物きれいにたたむ終戦日 大分県 染矢みらい

おかあさんはじめてみたよセミのうか 兵庫県 西田 遥人

抽斗に帯とお面と祭の香 東京都 近藤 由雅

蝉の声きえてなおある蝉の殻 兵庫県 安達 琉稀

秋深し街にポツンと古木屋 静岡県 小長井夏心

見失うボール真夏日のホームラン 富山県 林 千之助

駆け抜けるセミの声降る通学路 広島県 高橋 夏帆

夏盛ん由良っ子の声響く町 兵庫県 若宮 來夢

たいいくのリレーはいはるの風 富山県 中田 輝

入選作【学生の部】三根香南選

《優秀句》

弟がねがえりできた雪の夜 富山県

浜田 永花

《優秀句》

スウェーデン刺繍にすくう蟬時雨 東京都

近藤 由雅

炎天下土で汚れた背番号 東京都

山口 颯也

レース着る貴方はまるでクリオネね 広島県

竹田 麗

前髪の先端夏が始まった 滋賀県

池田 玲亜

星月夜コロンブスも見た北極星 佐賀県

田中 瑠夏

うろこ雲鳶高舞える由良漁港 兵庫県

木下桃太郎

田園に似合わぬほどのさぎの白 岐阜県

小田 憩

初陣の努力を語る日焼けあと 兵庫県

山口 悟輝

占いを信じてかけるサングラス 静岡県

卜部 聡太

入選作【学生の部】木下圭子選

《優秀句》

冬うさぎ白い大地に隠れけり 兵庫県

花田 善

《優秀句》

たんぼぼのわたげを追ひしランドセル 東京都

上野 有喜

父と母思い出語り障子貼る 岐阜県

渡辺かずは

つづくんだありのぎょうれつたのしいな。 鳥取県

わたなべいすけ

アンカーはツクツクボウシリレー走 東京都

柳沢 悠斗

特攻の想いが夏の空に散り 福岡県

吉加江遥貴

太陽が大事に育てた夏野菜 埼玉県

中村 航輔

弟がねがえりできた雪の夜 富山県

浜田 永花

雪が降りだんだん山が消えていく 兵庫県

増山 音羽

洗たく物きれいにたたむ終戦日 大分県

染矢みらい

入選作【学生の部】高野さち選

《優秀句》

平和とはおんなじ虹で笑うこと 大分県

梅田 悠真

《優秀句》

抽斗に帯とお面と祭の香 東京都

近藤 由雅

ありさんがおさんぼしてるまいごなし 岐阜県

杉本奈津希

はじめてのぷるおみずをのんじやった 富山県

奈部 孝明

極大の足跡の数夏の浜 兵庫県

古東 弥樹

頼むぞと手渡すボールにじむ汗 兵庫県

清水 梧斗

初陣の努力を語る日焼けあと 兵庫県

山口 悟輝

大空へせんを抜いてるラムネかな 大分県

姫野 心泉

打ち水のしゃくに広がる青い空 兵庫県

白井 聖龍

秋深し街にポツンと古本屋 静岡県

小長井夏心

入選作【学生の部】鬼本英太郎選

《優秀句》

焼きいもを包む新聞やわらかく 鳥取県

金平 陵汰

《優秀句》

ありさんがおさんぼしてるまいごなし 岐阜県

杉本奈津希

弟をせおう花見の帰り道 富山県

森本 結子

春の町まつり太こがひびき出す 富山県

笹川 桜介

さよならを告げる笑顔に桜咲く 佐賀県

藤野 純

秋深し街にポツンと古本屋 静岡県

小長井夏心

空気揺れ夜空に開く火花かな 広島県

田頭 瑠華

学び舎に思い出置いて卒業す 兵庫県

増田 有華

たけのこをさがして山をかけ上がる 富山県

石田 光祐

うろこ雲鳶高舞える由良漁港 兵庫県

木下桃太郎



【一般の部】

《正井良徳選》

少年を少年と成す大夏野 兵庫県 佐竹美保子  
 突然の雷や地に雨突き立てて 香川県 静川あさえ  
 星の数減らして灯る道の駅 茨城県 篠崎 順子  
 弁当の間も海女海をみて話す 東京都 曾根新五郎  
 一陣の風に噴水折れにけり 兵庫県 香椎みつゑ

《三根香南選》

墓洗う大地へ返す余り水 大阪府 阪本 彰  
 真つ直ぐに信じる夢や天高し 兵庫県 深澤美佐恵  
 もう一つ国を産もうか田水沸く 兵庫県 岡本 功  
 せんべいに木偶の焼印村芝居 兵庫県 榎本 純子  
 庭の木はどれも記念樹秋日和 千葉県 岡田 春人

《木下圭子選》

蚊遣火を腰に揺らせし畑仕事 神奈川県 石垣 葉星  
 寄り添ふも離るることも母子草 茨城県 川上 修一

【学生の部】

《正井良徳選》

最後の夏コートに向かい一礼し 山口県 中村 杏奈  
 オリオン座指さす二人夜の海 兵庫県 梶田 灯  
 糸電話の糸に結び目稲光 兵庫県 田村 典  
 大空へせんを抜いてるラムネかな 大分県 姫野 心泉  
 夏祭りみんなの中れない僕 兵庫県 坂本 朱花

《三根香南選》

たんぽぼのわたげを追ひしランドセル 東京都 上野 有喜  
 合奏はまだ始まらず若葉雨 東京都 山中 美月  
 風ゆらぎ蝶がおりなす舞踏会 兵庫県 小野竜之介  
 正門に必勝誓い挑む夏 兵庫県 白井 凜音  
 踊り舞う金魚鉢では舞踏会 兵庫県 宮本 雫

《木下圭子選》

つくしでたもうすぐ二ねんせいになる 富山県 村田 惇  
 草刈りの音で目覚める夏の朝 山口県 横山 裕翔

聖五月キラキラ光る泥団子 島根県 寺津GONZA  
 夏木立森の深さとなつてをり 三重県 前出美千子  
 機関車の最終運転風光る 熊本県 永田 証真

《高野さち選》

青嵐の氣息に逢へし島の秋 兵庫県 柄川 武子  
 虚子生れ汀子師逝きし梅二月 京都府 藤堂くにを  
 白靴や決意の朝の固結び 愛知県 畔田 のう  
 秋天や論鶴羽山の渡蝶 兵庫県 前島 一博  
 玉葱の味の一つに潮の風 兵庫県 高井 美里

《鬼本英太郎選》

戸を敲く鳥に目覚める夏山家 東京都 小林 麦秋  
 秋めくや図書館司書の白き肌 鳥取県 五百川知子  
 玉葱の田中の小屋へ吊られをり 兵庫県 空井瑞陽庵  
 帰省子の背丈に余るチェロを抱き 兵庫県 小谷さよ子  
 青嵐の裔の植ゑある秋茄子 兵庫県 谷 勝美

《高野さち選》

たいいくのリレーはいはるの風 富山県 中田 輝  
 父と母思い出語り障子貼る 岐阜県 渡辺かずは  
 扇風機そんなに回って大丈夫 岐阜県 森 大和  
 金平糖空にかざした星月夜 静岡県 池本 和馬  
 夏休みめぎす帯色黒帯だ 岐阜県 岡部 陽希

《鬼本英太郎選》

入道雲空我がものと仁王立ち 広島県 北岡 結子  
 秋桜ここは縄文遺跡かな 愛知県 三浦 英雄  
 老鷲の山裾深くひとしきり 兵庫県 山岡 和生  
 すいかわりドキドキとむねがなる 東京都 井元 結菜  
 夕立に上下ゆれるランドセル 東京都 柳沢 悠斗

## 俳句入門講座(令和5年度)

本講座は、俳句初心者を対象に、俳句の基礎知識や俳句の歴史、俳句の作り方などを楽しんでいただくことを目的に3回連続講座として実施しました。

- 第一回・開催日 令和5年7月26日(水)
  - ・内容 講義「作句のための基礎知識」
  - ・講師 水田むつみ氏(「田鶴」主宰)
  - ・受講者数 33名
- 第二回・開催日 令和5年8月5日(土)
  - ・内容 講義「名句の鑑賞」
  - ・講師 正井良徳氏
  - ・受講者数 24名
- 第三回・開催日 令和5年8月20日(日)
  - ・内容 句会体験「さあ俳句を作ってみよう」
  - ・講師 正井良徳氏、三根香南氏、高野さち氏、鬼本英太郎氏
  - ・受講者数 23名(うち欠席投句2名)

※いずれも洲本市文化体育館

## 俳句出前講座(令和5年度)

本講座は、島内の高等学校・中学校・小学校において、俳句の基礎や作り方などの講座を行い、児童・生徒に俳句への理

## 後記

### 第十五回永田青嵐顕彰全国俳句大会

運営委員会 副委員長 三根 香南

海見えて風花光るものとなる 汀子

頭上高く、洲本城跡の石垣が聳える景勝地、大浜公園前の一角に永田青嵐の句碑と並んで汀子先生の句碑が永遠の時を刻んでいます。

天上の汀子先生、いかがお過ごしでしょうか。先生が礎を築かれた本大会も廣太郎先生に引き継いでいただき第十五回目の節目を迎えております。

新型コロナウイルス感染症は令和五年五月より五類に移行され緩和の兆しが見えはじめました。しかし、世界に目を移しますと、戦争や異常気象による災害が各地で起き、不穏な情勢です。

こうした中で、「第十五回永田青嵐顕彰全国俳句大会」が開催されますことは、ひとえに七九〇七句をお寄せいただいた皆様方のご支援のおかげと改めて深く感謝をいたします。

代表選者の廣太郎先生、講演会講師の山田佳乃先生のお声を会場の皆様とお聞きできる幸せを感じつつ、大会に係る皆様方のご努力に敬意と感謝を申し上げます。

令和六年二月

解を深めていただくことを目的に開催しており、今年度は4校で実施しました。(講師 正井良徳氏、高野さち氏)

- 洲本市立安乎小学校 6年生(10名)
  - ・実施日 令和5年7月14日(金)
- 県立洲本実業高等学校 3年生(35名)2年生(33名)
  - ・実施日 令和5年9月6日(水)
- 南あわじ市立神代小学校 1年生(22名)2年生(23名)3年生(29名)4年生(26名)5年生(27名)6年生(26名)
  - ・実施日 令和5年9月11日(月)
- 洲本市立由良中学校 3年生(10名)
  - ・実施日 令和5年9月22日(金)

## 第15回淡路島吟行バスツアー

淡路島の景勝地等を巡り俳句を詠む淡路島吟行バスツアーを実施しました。吟行後には、ホテルニューアワジプラザ淡路島で本大会の選者を囲んで句会を行いました。

- ・実施日 令和5年11月23日(木・祝)
- ・行程 成相寺く若人の広場公園くホテルニューアワジプラザ淡路島
- ・参加者 31名

### 第十五回永田青嵐顕彰全国俳句大会

投句者及び投句数

【全体】	投句者	四三九七名
	投句数	七九〇七句
【一般の部】	投句者	一〇一五名
	投句数	一九九七句
【学生の部】	投句者	三三八二名
	投句数	五九一〇句

運営委員会委員

・大会名誉会長	永田 秀一
・大会会長	石村 健
・運営委員会委員長	東元 良宏
・運営委員会副委員長	正井 良徳、三根 香南
・運営委員	木下 圭子、高野 さち
	鬼本英太郎、江川 隆子
	粟井 光代、塩谷 春美
	片山 紀子、福浦 泰穂
	山内 喜夫、福島 太
	家田 和幸、城越 孝輔